

和泊町立中学校のあり方座談会 会議録（概要）

1 日 時 令和7年12月8日（月曜日）午後7時～

2 会 場 和泊町役場結いホール

3 出席者

(1) 和泊小学校区住民・和泊小学校保護者・教員 13名

(2) 和泊町教育委員会事務局：永井局長，市来指導主事，和田次長，上別府次長
安田係長，村吉主査

4 会議の内容

(1) 開会あいさつ（永井局長）

(2) 和泊町立中学校のあり方について資料説明

(3) 質疑応答

(4) 終了

5 議事録（発言者，発言内容等を記載）

1. 開会あいさつ

（和泊町教育委員会 永井事務局長）

※省略

2. 会議の進め方と情報公開について

（事務局）

※省略

3. 現状と課題の説明（概要）

（事務局）

説明は，配布した座談会資料に基づき行われた。

4. 質疑応答及び意見交換

（参加者）

素晴らしい資料をありがとうございます。資料作成に多くの時間がかかったのではないかと思います。和泊町の小中学校の校舎を作って，まだ借金があり，借金がある間は，目的外使用ができないと聞いたことがある。今はどのようになっているかを聞きたい。学校の統廃合について，行政がリードする場合と地域からの要望があった場合に考える場合と2つのパターンがある。どちらが良いかと考えると，地域から要望があった時に行政が動く方が良いと思っている。

(事務局)

学校の目的外使用については、文部科学大臣の承認が必要になる。昨年度、国の交付金も活用しながら1億円を超える事業費で内城小学校の校舎改修事業を実施した。改修後、10年以上経過して廃校になる場合は国への報告のみで良いが、10年未満で廃校になり有償で他の企業や団体に貸し出す場合、交付金の返還になる可能性がある。教員住宅についても、10年経過後は、国に申請を出して承認が下りれば、目的外使用は可能。2点目の「地域から要望があった時に行政が動く方が良いと思っている。」ということに関しては、我々もそのように考えている。他市町村の事例を見ても、行政主導で統廃合を決定して進めていった場合には、軋轢や地域住民から反発があったりする。我々も、地域の皆様から幅広くご意見を伺い、将来的な学校のあり方について考えていきたいと思っている。

(参加者)

学校の教員の先生方も参加いただいているので、ご意見をいただきたい。私も、行政主導よりも地域の皆さんの声を聞いて進めるべきと考えている。そのなかで、一番重要となることが、子ども達の豊かな学びと共に、より良い人間関係を構築する教育環境が必要と書いているが、教育現場の声として小学校低学年、高学年、中学校の1クラスあたりのベストな人数というのがあると思います。なかなか答えづらい質問になりますが、先生方の感覚として、どのくらい的人数がベストなのか聞いてみたい。

(教員)

個人の意見としてお答えしますが、中学校は、1学年で41人を超えたら2クラスになる。和泊中学校は、1クラスあたり20人くらいで教師の配置についても非常に良いと感じている。1学年40人になると1クラスになり職員も減る。そうなる教室も窮屈になるし、子ども達の人間関係が崩れた場合に、3年間ずっと一緒なので再構築しにくくなるという面もある。A町では、3学年1クラスずつで人数も多いが、教員も少なくて目が届きづらい部分もあるのかなと感じた。そういう部分を見ると、クラスは多い方が望ましいし、教員の人数も確保できると思う。和泊中学校の生徒数には、特別支援学級の方も含まれるので、来年からはもしかしたら1クラスになる可能性がある。個人的には、子ども達にとって1学年2クラスある方が望ましいと思う。

(教員)

個人的な意見としてお答えしますが、和泊小学校は5年生が2クラスあるが、4年生は1クラスで40人くらいいる。学習指導や目が行き届くといった面で考えると、2クラスあると、教員同士もお互いサポートができる。1クラス40人を1人で見るとなると教員の負担も大きくなる。1クラスあたり30人くらいが良いのかなと思う。また、小学1年生の1クラス30人は多いと思う。例えば1年生なら20人くらいが良いのかなと思うが、国の基準が

あるので教員からは言えない部分。中学校と同じで小学校も複数クラスがある方が教員配置も可能になるし、こども達に目が行き届き、いろんな意味でメリットはあると思う。

(参加者)

先ほど、基準というのがありましたけど、奄美群島の他の市町村も同様と思うので、国の方に1クラスあたりの基準を減らすという要望をしていただけたらと思う。

(参加者)

教育環境で適正な児童生徒数とクラス数が分かった。和泊中学校と城ヶ丘中学校が合併した場合に町全体の教員数はどうなるのか？

(事務局)

具体的な数字はまだわからないが、県への要望も含めて、今後検討していく。

(参加者)

教員の人数が減ってくると地方交付税も減少すると思うので、学校を残すことも考えていくことも大事なのかなと思う。

(事務局)

施設が老朽化してきているので、施設修繕費も年々増加してきている。城ヶ丘中学校の教員数は13名いる。地域経済効果や交付税等を試算すると年間約2,300万円になる。城ヶ丘中学校を廃校にした場合の財政効果もほとんど同額となるためあまり変わらないが、校舎の大型改修事業がある場合には多額の費用がかかる。統合した場合は、通学用のスクールバスの費用がかかってくる。B町に問い合わせたところ、スクールバスの委託費が、2路線で年間3,500万円ほどかかるという話であった。財政面で考えるとどちらが良いかというのは検討する必要がある。学校の統廃合で大事なポイントは、スクールバスの確保と児童生徒の安全確保の2点が必須となることから、和泊中学校を城ヶ丘中学校に統合となった場合、スクールバスは5台くらい必要になるので、費用面を考えると現段階では現実的に難しいと考えている。ただ、一方で城ヶ丘中学校区の保護者の皆様からのご意見では、和泊中学校の立地が海に近いため津波の被害を心配されている。和泊中学校では年に2回、津波の避難訓練をしている旨はお伝えしている。

(参加者)

城ヶ丘中学校が和泊中学校に統合される場合は、スクールバスは何台必要なのか？

(事務局)

現段階の人数は、36名なのでスクールバスが、2台必要と考えている。鹿児島本土のC町については、4つの中学校をひとつにする方向性は決まっている。ただ、校舎の建設費用が、当初18億だったが、資材高騰等の影響により28億円に上昇していること、また、スクールバスの運転手が足りないことなど、計画変更を余儀なくされているとのこと。本町でも、スクールバスの運転手の確保等が課題となってくると考えている。他市町村の事例を参考にしながら進めていきたい。

(参加者)

城ヶ丘中学校が和泊中学校に統合する場合は、2クラスに人数は入るのか？増改築は必要なのか？

(事務局)

城ヶ丘中学校が和泊中学校に統合する場合、現在の人数であれば和泊中学校の2クラスに十分入ることが可能。増改築も必要ない。しかし、和泊中学校を城ヶ丘中学校に統合する場合、城ヶ丘中学校には1クラスしかないことから、増改築が必要となる。

(参加者)

座談会後のアンケート調査の回答率を聞きたい。このアンケートの対象者は、地域の人か？それとも保護者なのか？こども達を対象にしたアンケート調査をする予定はあるか。

(事務局)

座談会の参加者は、城ヶ丘中学校区で120名いたが、アンケート回答者は約20名。事前アンケート調査は、保護者を対象にしている。こども向けのアンケートについては、来年度に学校のあり方検討会を設置予定なので、アンケートの内容や実施について協議していきたいと考えている。

(参加者)

和泊中学校区から保護者が2名しか来ていないことがかなり衝撃的だった。来年度、このような集まりをするにしても、しっかりと広報をした方が良いと思う。保護者も自分事として考えないとこども達が困ると感じた。

(事務局)

今回、学校の保護者向けにまなびポケットという連絡ツールを使い、全ての保護者に周知を行った。また、サンサンテレビ文字広告や町公式LINE、防災無線を活用し使える情報発信ツールは全て使って広報を行ったが、集まっただけなかった状況。告知方法については、再度検証していきたい。和泊中学校区に比べると城ヶ丘中学校区は人数も少ないため、

危機意識が高く、参加人数が多かったと思う。

(参加者)

和泊中学校校区と城ヶ丘中学校区の保護者を集めて意見交換会をした方が良いと思う。できれば、町内4つの小学校の保護者を集めた方が今後のために、有意義な話し合いになると思う。

(事務局)

城ヶ丘中学校校区で開催した座談会でも同様のご意見をいただいた。来年度は、学校あり方検討会を設立する予定で、学校の統廃合について経験豊富な学識経験者も委員に入っていていただく予定。その学識経験者の方に、他地域の事例を紹介していただくシンポジウムを計画している。その際に、保護者や地域住民の方々に広く呼び掛けたいと考えている。

(事務局長)

城ヶ丘中学校校区の保護者から、学校に行きづらい子どもがいる場合、和泊中学校に統合された時に、そういうこどもの受け皿があるのかという問い合わせをいただいたので、和泊中学校の空き教室や教員の確保等の準備は必要であるとお答えした。本町には6つの校区がありますが、学校選択制を導入してはどうかという意見もあった。現在、城ヶ丘中学校校区から知名中学校、大城小学校区から和泊中学校、知名中学校区から和泊中学校に通っている生徒もいるので、以前に比べると柔軟に対応している。教育委員会としても、子ども達のために様々なサポート体制を整備していく必要があると考えている。

(事務局)

中学校が統合となった場合、他市町村では、中学校の校名や校章、校歌を新しくしている事例が多い。統廃合を計画している奄美群島の市町村もそのように準備をしている。

6 閉会

参加者に対し、アンケートの回答は今後の方向性を決める大事なデータになるので、回答について重ねて要請し、閉会した。